

第59回富山県発明とくふう展 内容説明書 (令和3年度)

出品区分	1 企業の部 ・ 2 一般の部		受付番号	57	
ふりがな	こんどうとうりん				
作品の名称	金銅塔りん				
ふりがな	やまぐちきゅうじょう	ふりがな	やまぐち こうたろう		
会社名	株式会社 山口久乗	発明者名	山口 康多郎 他 名		
出願状況	<input type="checkbox"/> 未出願	出願番号	特許・実用・意匠	2015- 123456	年 月 日
	<input checked="" type="checkbox"/> 出願済	公開番号	特許公開	2016- 234567	年 月 日
		登録番号	特許・実用・意匠	第 3231482 号	2021年3月16日
特徴と要点 (必ずご記入下さい)					
<p>従来、お家に仏壇を設け、本尊を祀り、仏具で荘厳する。遺骨はお墓に納めて供養する。それが一般的であった。ところが近年、遺骨に関して、ほんの少しの遺骨を手元に残し、あとの遺骨はなんらかの形で始末してもらおうとか、散骨とか、せめて樹木葬や合祀で済ませるといった傾向がみられるようになり、手元に残した遺骨を供養する手元供養の需要が高まっている。</p> <p>そこでミニ骨壺をつくり、魂をつなげる音の架け橋「おりん」と組み合わせることとした。コンパクトになり場所もとらずによりねんごろな手元供養が出来る。</p>					
<p>1. おりんは響きを抑えないように固定しない取り付けとした。</p> <p>2. 金銅塔型のミニ骨壺で内蓋もあり、大切なものを護る気持ちに寄り添うように二重構造となっている。(実用新案登録 第 3231482 号)</p> <p>3. おりんにミニ骨壺を組み合わせることは弊社実用新案登録 第 3182093 の応用である。</p> <p>4. おりんをほどよいゆりみを持たせて台座に設置するのは、弊社の特許 第 6062988 号の応用である。</p>					

略図、図面、写真等で、簡単に特徴を記入して下さい。(※太枠内でご記入ください)

(※審査用にコピー(縮小)しますので、濃く見やすく作成してください。)



完成品

おりんの内側にミニ骨壺を固定するが、おりんはゆるみのある取り付け



おりんをしっかり固定させず、ほどよいゆりみを持たせて、台座に設置

金銅塔型のミニ骨壺



おりんの内側に設置する



内蓋もあるミニ骨壺



内蓋の閉まった状態



内蓋を外した状態

【記載注意事項】

- この説明書は、審査用、展示用カードとして用いられますので必ずご記入下さい。
- 従来のも(方法)に比し、どこを(何を)どのように工夫したか、要点を判り易く図または写真でご説明下さい。
- 改良工夫箇所が多くある場合、要点をしぼってご記入願います。
- この内容説明書は出品申込書と一緒に、令和3年9月21日(火)までに事務局へ提出して下さい。